



一般社団法人  
**日本助産学会**  
**ニュースレター**

No.89

The Japan Academy of Midwifery Newsletter

## 第33回日本助産学会学術集会の報告

第33回日本助産学会学術集会会長

ICM Western Pacific 地域担当理事

九州大学大学院医学研究院保健学部門看護学分野 谷口初美

第33回日本助産学会学術集会企画実行委員長

真田産婦人科麻酔科クリニック, 九州大学助産師同窓会副会長 島ノ江栄子

### はじめに



平成 30 年度 第 33 回日本助産学会学術集会・総会を平成 31 年 3 月 1 日～3 日に九州の地、福岡市の福岡国際会議場におきまして開催することができました。企画実行委員が一目でわかるよう紅白の蘭のコサージュを胸につけ、そして、胸に抱いたにこやかな赤ちゃん達とお迎えいたしました。総会、プレコングレスを皮きりに 2 日間の学術集会が開催されました。「世界に躍進する日本の助産～いのちの担い手、愛と知と技～」をテーマとして、日本の助産を世界へ発信する展望の下、ICM の Franka Cadee 会長の力強いビデオメッセージと来年の ICM 2020 インドネシア大会に兼ねてインドネシアの会長で ICM 南アジア理事の Emi Nurjasmii のバリへのお誘いのメッセージにより開幕しました。

また、西太平洋地域の代表である谷口初美氏が ICM 理事として非常に重要で卓越した役割を果たしていることに感謝しています。



ICM 前会長の Frances Day-Stirk 氏を特別講演者にお迎えしての開幕当初から ICM の色強いオープニングとなりました。



### 学術集会

本学術集会の 3 つの柱となる

1: 日本と世界の架け橋では、「世界に躍進する日本の助産～いのちの担い手、愛と知と技～」の会長講演に始まり、特別講演としての

「Retrospective and Reflections」(前 ICM 会長 Frances Day-Stirk)、教育講演として「日本の助産師モデル」(公益社団法人日本助産師会会長 山本詩子氏)、そしてシンポジウムとして、若き助産師たちの「世界へ発信する日本の助産～アジアからアフリカ地域に向けて～」

2: こころのケアの教育講演には、「助産学の新たな風と精神保健への役割」(医療法人風のすずら

ん会メンタルヘルスクリニックあいりす 吉田敬子氏)講演に引き続いてシンポジウムでは、「周産期メンタルヘルスの取り組み」が活発に討論され、そしてこの知識を市民の皆様にもお知らせすることで「スマホに子守をさせないで!～赤ちゃんが健やかに育つために～」九州医療センター小児科部長佐藤和夫先生に、そして福井大学友田明美先生には「子どものこころの発達：児童虐待と傷ついていく脳」を周産期から育児期にかけてのこころのケアを存分にお話しいただきました。後援の福岡市、医師会、助産師会、看護協会小児科医会とチラシ 2500 枚の効果と現在の社会問題で市民の皆様方の関心度も高かったためかお子様連れの親子が目立ち一般参加者は 200 名以上となり 1000 名の大ホールがあふれるほどになり本来の市民に開かれた講座となりました。



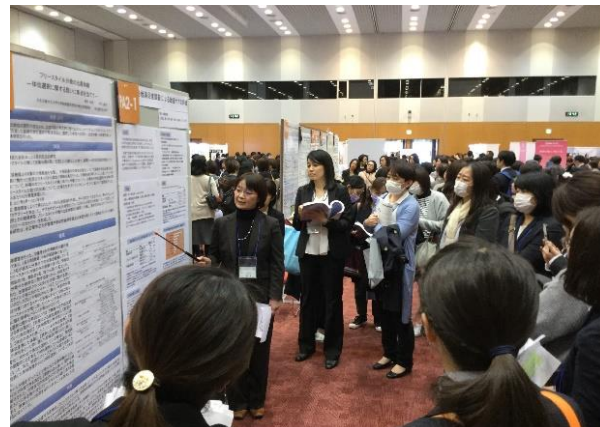
### 3：最後の柱は、助産師の自律です。

教育講演を「産科診療における超音波の役割」(久留米大学医学部産婦人科学講座吉里俊幸氏)、「助産師教育におけるシミュレーション教育の可能性」(東京医科大学医学部看護学科阿部幸恵氏)はこれからの助産師の技能を磨くために大変役立つ講演となりました。シンポジウムは「自律した助産師の育成」で 2 日目の最後でしたが大勢の参加者が真剣にこれからの助産師教育に熱心に取り組んでいました。

本年度の新たな試みの英語による口頭一般口演 6 演題は、座長の大阪大学の渡邊浩子先生、京都大学の古田真里枝先生のリードで見事に展開し、Frances 前会長も参加し、1 演題ごと演者を称賛し、コメントを付け加えて下さり、演者の皆さんにエンパワーして頂きました。「発表はとても素晴らしく、日本に優秀な人材がこんなにいるのかと嬉しい驚きでした。」「国際派の助産師さん方が確

実に増えていること、英語力、研究力共に身に付けて帰国されている事実をみることができ、大変嬉しくなりました。」「今回で日本助産学会もグローバルになっていると感じます。」等のご意見を頂きました。

今回は、一般演題 292 題のうち、口頭発表 91 題、ポスターセッション 201 題の登録があり今までにない演題数で、会場は大盛会になり質疑応答も熱の入った交流ができたようです。



また、演題集の多さに集録集は膨れ上がり重さ 1 Kg 以上にもなる始末。ペーパーレスのデジタル化の時代の顛末で、配送費用やまた持参することを考慮し、急遽配送中止し、当日受付で手渡とすることとし、前納者には PASSWORD (PW) で内容閲覧できるような措置にしました。また、会期中も 1 Kg 以上の集録集を持ち運ぶことの不便さを考慮し、PW で閲覧できるような配慮を取りました。来年度からは集録集はなくなり、デジタル化となる予定です。それを立証する良い体験ができたと思います。

ワークショップは 1 題「ガイドラインをどう実践に活かしていくか～実装研究 (Implementation research) の活用～」、交流集会は 5 題「日本だけじゃない！世界が注目 東洋医学！～鍼灸師が伝えたいツボの基礎～」、「院内助産・助産師外来の推進とアドバンス助産師の活動」、「助産政策委員会の活動と 2020 年診療報酬改定に向けた要望の検討」、「乳腺炎重症化予防-乳房ケアの技を身につけるためのヒントを探る-「乳房模型を持参して、痛くない乳房ケアを学ぼう！」」、「明日から使える！冷え症ケアの「技」でした。

本年度は、学生ポスターは、14 題の発表があり、全国助産師協会協議会会長賞、第 33 回日本助産学会学術集會会長賞、そして Best Presentation 賞の 3 校が選ばれました。それぞれ、

「継続事例との関わりから見た助産師の強み」奈良県立医科大学医学部看護学科

「A 病院での助産学生のマタニティクラス運営の実際と学び」日本赤十字看護大学

「きばれ！よかおごじょ's～大学院での助産学研究活動～」鹿児島大学

の学生さんでした。皆さんが信じられないと泣き出す学生さんもいて感動的な瞬間を私達も味わうことができました。

### 懇親会

博多ならではのおもてなしの場所として、築140余年、国の有形文化財に登録されている「博多百年蔵」を半年間かけて念じ続け、その希望が叶った場所での懇親会、110名の満席での宴会となりました。実際は、週末は結婚式のレセプションのみということで参加登録が遅れましたのもこの3か月前の博多百年蔵の予約のためでした。博多百年蔵では、やはりお着物をというご助言を受け、時間を工面して登場いたしました。日本助産学会高田昌代理事長、福井トシ子日本看護協会会長、山本詩子日本助産師会会長、日本医師会の平川俊夫常任理事（産婦人科医）にご祝辞を頂き、Frances Day-Stirk 前 ICM 会長の乾杯の音頭でスタートしました。歓迎の力強い「黒田節」の舞と美酒に酔い、最後は、しゃもじを鳴らしながら「博多どんたく」を皆で踊り助産師の絆は一層強まりました。



### 展示

企業展示（31社）、書籍展示（7社）、の企業さんの展示で会場は、いつも人にあふれ、企業さんからも売り上げはなかなかのものだったようです。

この展示場では、2企業様より飲み物提供があり、また、学術集会からは忙しい会期中は、学問の神様である大宰府天満宮にはなかなか行けないため、いち早く春の香りと天満宮のご利益をとの

思いで「梅が枝もち」を先着1000名の皆様にプレゼントしました。



また、今回初めての試みで絵画展覧会も5F会場で行いました。岡本喜代子先生が昨年の秋から描かれた絵画150点です。「Sense of Wonder:初めての感動」というテーマで描かれた世界とJICAの出産の写真展に皆さん足を止め、学術的な左脳を右脳にスイッチして心豊かになる時が味わえたのではないかと思います。



### おわりに

今回の学会参加者は、事前（会員：587名、非会員284名；学生73名）計944名、当日（会員：

298名、非会員370名：学生：94名）762名 合計1706名と一般市民約200名、企業約200名を加えると2100名を超える参加者となり、盛会裡で終了することができました。今年の学術集会は、実行委員も参加者も子連れが多く、受付から会場にかけて赤ちゃんが一緒にいる事で普段の学術集会とは異なった和んだ環境を赤ちゃんが演出した様にも感じた学会でした。今回の学術集会を終了して、みなさまから頂いたお言葉を下記に列挙させていただきます。

- ・「愛」あふれる充実した学術集会でした。
- ・とても、充実した学会で、また、スタッフの皆様のお心遣いも大変うれしかったです。
- ・ICM元会長をお招きできるとは、さすが！
- ・内容の濃い学術集会で、助産師達は海外にも視

野を持つ必要性を心に留めて帰路についたと思います。

- ・学術集会のプログラムもとても良かったです。
- ・どの講演も興味深く、聴くのも楽しかったです。講演者のエンターテインメント性でしょうか。他にも多くメッセージを頂きました。

ご参加いただきました皆様、学会理事の皆様、諸先輩方、企業の皆様等、多くの方々のおもてなしとご支援に心より感謝、御礼申し上げます。いのちの担い手である助産師は、これからも愛と知と技を、守り+生かし+伝えることを、『点』〈福岡〉から『線』〈日本〉へ、そして『面』〈世界〉へ広げること約束し、有森直子次期学術集會会長へバトンタッチしたいと思います。

## 平成29年度学会賞表彰者

表彰関連委員会 加納 尚美



高田昌代理事長 宮崎文子氏 加納尚美理事  
磯山あけみ氏 李節子氏

### 1. 功労賞 宮崎文子氏

#### <表彰理由>

宮崎文子氏は、現在大分県立看護科学大学名誉教授であり、東京医療保健大学東ヶ丘・立川看護学部臨床看護コースおよび看護学教授を歴任し、本学会理事を3期歴任、2007年には第21回の学術集會会長として大分市にて「求められる助産師の自律—地域との連携のもとで—」のテーマのもとに成功されています。九州大学附属助産師学校

をご卒業されて以来、助産師として大学教員として、時実践、教育、研究分野において多大な活躍をされております。学会の基盤づくりおよび活動の推進に奮闘し、質の高い助産ケアと様々な社会情勢を見通して本学会を牽引してくださいました。

この様に宮崎氏は、本学会の運営・発展に多大な貢献をされ、今日の日本助産学会の発展に寄与した功績は大きく、数多くの功労を収められました。

### 2. 奨励賞 李節子氏

#### <表彰理由>

李節子氏は、長崎県立大学大学院人間健康科学研究科の教授であり、長年にわたり在日外国人の母子保健に関する研究や支援に携わり、健康に生きる権利は国籍や在留資格の有無に関わりなく、世界中の誰もが持つものであり、その権利であることを主張し、助産師の視点から女性や子どもの人権尊重のために尽力されてきました。最近の活動として、「放射線災害に伴う在日外国人女性の健康管理」、「無国籍状態の子どもたちの問題の背景と必要とされる支援」の研究および「公的空間における性暴力撲

滅」の活動にも貢献されています。長期に渡って、精力的に女性の人権擁護のための活動をされた功績は、社会的にも高く評価されています。

### 3. 学術賞 礒山あけみ氏

#### <表彰理由>

礒山あけみ氏は、現在上智大学総合人間科学部看護学科の准教授として看護教育および助産師教育においてご活躍されています。研究は、「周産期女性の健康支援に関する研究」に取り組まれています。

今回の学術賞の論文である「第2子を迎え入れる母親に対する準備教育プログラムの開発と評価」では、準実験研究手法を用いて、妊娠期における準備教育プログラムを開発し、第2子妊娠中の母親の育児意識の評価により、有効なプログラムであることが実証されています。今後、本研究成果は助産師が育児支援実践に取り入れることができる内容であり、研究成果が活かされることが期待できるものです。

## 2018年度名誉会員推戴報告

2018年度（基準日：2018年1月31日）に名誉会員へ推戴された会員は以下の通りです。

なお、名誉会員の推戴は名誉会員に関する規程に

基づき理事会で有資格者を選定し、本人の同意を得て推戴を行っています。

浅 生 慶 子  
大 谷 タカコ  
小木曾 みよ子  
加 藤 尚 美  
川 中 洋 子  
近 藤 潤 子

坂 井 明 美  
高 橋 弘 子  
多 賀 琳 子  
内 藤 直 子  
平 澤 美恵子

(50音順、敬称略)

## 学術賞受賞論文 ～論文誕生秘話～

上智大学総合人間科学部看護学科・助産学専攻科 礒山あけみ

この度、日本助産学会学術賞という身に余る賞をいただき、推薦いただきました先生方に心より感謝申し上げます。本論文「第2子を迎え入れる母親に対する準備教育プログラムの開発と評価」は、2011年から12年にかけて介入した研究です。しかし本研究のプログラムの開発に至る基礎研究のスタートは論文が掲載される13年前の2003年でした。研究の動機は「母性は発達する」が、何がどのように発達するのか？という疑問を解決したかったからです。その疑問を解決するには、第1子の妊娠出産育児経験のある第2子を迎える母親に焦点をあてて調査することにより明らかに

なるのではないかと考えました。まずは第2子妊娠中の母親20名へのインタビューを行いました。すると、第2子妊娠中の母親は育児経験があるから余裕という反面、「生活の中心は第1子」であり、2人を同時に育児していくことに対して戸惑いや不安を抱いていました。この研究から母性は発達しているものの、同時に2人を育児することに対する困難も明らかになり、初産婦と異なる認識を抱いていることが明らかになりました。その研究結果は2010年に「第2子妊娠中の母親の子育てに対する主観的体験」で発表いたしました。

これら第2子妊娠中の母親の特徴を明らかにし

たことから、2人同時育児への適応が経産婦のためには必要であると思い、初産婦と異なる第2子を迎え入れいる母親に対する準備教育プログラムを開発したわけです。プログラム開発には先行研究を含めニーズ分析を行い、経産婦の家族の特徴を踏まえ、プログラム内容や方法を検討いたしました。第1子が兄姉になる準備性を高めるため、家族が第1子に読み聞かせができるように第1子が主人公のオリジナルの絵本を作成しました。また、介入のアウトカムを測定する物差しがないためそれらの作成から始めました。尺度が完成した後に介入群と対照群の2群を設定した準実験研究を行いました。

プログラムの実施にあたり、母子と家族のリクルートやプログラムの実施場所の決定には困難を要しました。最終的に当時勤務していた大学の臨地実習でお世話になり、助産学生時代の同輩に相談したところ、一つ返事ですぐに上司に繋いでくれ、病棟師長、看護部長、病院長も研究協力を承諾くださいました。

介入の実際は、当時利用されていなかった病棟のステーションを自由に使って構わないということで実現いたしました。この協力がなければこの

研究は達成できませんでした。約1年間、週末のたびに介入のため協力病院に通いました。プログラムを運営しながら本当に効果があるのか、分析結果が出るまでとても不安でした。結果、「2人同時育児のイメージ化ができています」については、産後1週間そして産後1か月において、介入群に有意に得点が高まっていました。「赤ちゃん返りはなくなると思う」という点についても、介入群において有意に得点が高まりました。

振り返ってみると、研究途中に様々な事情で継続困難な状況に陥る危機がありました。しかし成し得ることができたのは言うまでもなく研究にご協力くださった皆様のおかげです。改めて本研究にご協力頂きました母子と家族の皆様、介入研究の実施にご協力いただきました病院関係者の皆様、論文作成のご指導を頂きました先生に心から感謝申し上げます。

現在、私は周産期家族の役割獲得への支援に関する研究を継続的に行っております。この賞の受賞趣旨を受け止め、今後とも母子と家族の幸せを願って尽くす所存でございます。今後とも先生方のご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 富田江里子さんがヘルシーソサエティ賞受賞

日本助産学会 広報委員会



富田江里子氏

山本詩子助産師会会長

高田昌代理事長

### <富田江里子さんより>

ここフィリピンでお産や病人、貧困等が理由で就

フィリピンで母子の支援を行っている富田さんがヘルシーソサエティ賞を受賞されました。

日本助産学会と日本助産師会から富田さんを推薦させていただきました。

富田さんおめでとうございます。

富田さんの日々のご活躍の状況について、ご本人より記事をいただきました。

富田さんへの御寄附に関しては以下をご参照ください。

学していない子供たちに関り、19年になった。自然経過で進むべきお産に、早期からの怒責、おなかを押す、眠らせないなどの人為的なケアの結果、胎

児死亡がある現実を知り、たまたまなくなって保健所の許可を受け小さな産院を作った。その間、たくさんの母子や患者さんを通じて問題を知るたびに、仕方ないと考えて終わらせるのか、何か道を探し求めるのかを自問自答しながら実践してきた。

正常経過で進んでいるお産に、余計な介入は不要。それを知っているから、死産した赤ちゃんを目の前に余計な介入をさせない場所を作ろうと決心した。1, 5 キロの赤ちゃんに保温が大切。何もない貧しい家で、夜間の保温をどう行うか一緒に考えた。初乳は汚いと飲ませない親を説得する。多産で生活苦の中過ごす母親に家族計画を説得し、病院へ付き添う。医療があれば助かる子に医療を受けさせるためには、支援を得るため広報活動を行った。貧困者の中には、とても動物的にこの子はもう助からない、この子がいては生活に支障が来る、そんな無意識の判断を母親から下された子供はネグレクトされていた。いのちは亡くなるまで一人の人間として尊厳される、そう日本で教えられてきた。何か支援をすれば回復の見込みがある子を、人として見殺しにできるのか。回復しないにしろ、自分にできる事は無

いのかを問い続けた。衰弱していく子を見て見ぬふりをする親に育てられた他の兄弟たちの心はどう育つのだろうか？貧しければ、働けない子供は見捨てて良いと子供に刷り込むことにならないだろうか。こういう子供たちを保護したり、養育も行った。貧困のネットワークでは繋がりがなかった他の支援団体につなぎ、周囲の人も自分一人では担えないが、皆でなら力を貸してくれる社会関係が残っていた。

こういう活動に、日本助産師会山本詩子会長様、日本助産学会高田昌代会長様よりご推薦をいただき、この3月『ヘルシーソサエティ賞』という身に余る栄誉な賞を頂いた。

私の活動の元は、看護の諸先輩から教えていただいた「目の前にいる患者の前に己のベストを尽くしなさい」を行ってきたに過ぎない。私と全く同じ立場に日本の助産師が置かれれば「これで良いのだろうか？」と同じ葛藤を感じ動き始めるだろう。日本で看護・助産を学び育てていただいたからこそ、多くの諸先輩型に支えていただけたからできた活動が評価されたことを大変光栄に感じる。

家庭出産が禁止されたフィリピン、貧しさ故にお産場のない女性たちのお産・産後・家族計画をサポートしています。お産以外に貧しくて病院へ行けない人のケア、栄養失調児に対する支援、先天性心臓疾患児への手術支援、他を行っています。活動の様子は <https://ameblo.jp/erikobarnabas/>などで、紹介中

NPO 法人 NEKKO 兵庫県三木市福井 2093 - 16 電話；0794 - 60 - 2052

e-mail: erikobarnabas2000@gmail.com

郵便振り込み口座番号：00980 - 0 - 179028 振り込み宛先：CFP

## 2019年度乳腺炎重症化予防ケア・指導研修 オンデマンド研修

日本助産学会 助産政策委員会

日本助産学会ホームページに受講期間等の詳細を掲載予定です。

ホームページをご確認ください。

# 2019年度助産政策ゼミ ～助産ケアの質向上に向けた政策決定過程を学ぶ～

日本助産学会 助産政策委員会

助産ケアの質向上にむけた政策提言をするためには、関連する法律をよく理解し戦略を練る必要があります。今回のゼミでは、基本の“キ”として、助産ケアに関連する法律が、どのように議論されて法案として国会に提出されたかの政策決定過程を学びます。ぜひ、ご参加ください。

日時：10月20日（日）10:00～12:00

11月10日（日）10:00～12:00

内容に関する詳細は、日本助産学会ホームページにも掲載予定です。

助産ケアの質向上にむけた政策提言をするためには、関連する法律をよく理解し戦略を練る必要があります。今回のゼミでは、基本の“キ”として、助産ケアに関連する法律が、どのように議論されて法案として国会に提出されたかの政策決定過程を学びます。ぜひ、ご参加ください。

	日時	内容
第1回	10/20(日) 10:00～12:00	子育て世代包括支援センターを理解しよう —子育て世代包括支援センター設置にいたる背景と位置づけに関する法律の理解— 講師：佐藤 拓代 氏
第2回	11/10(日) 10:00～12:00	母子保健法の産後ケアセンターの位置付けについて理解しよう 講師：佐藤 拓代 氏

**会場** 日本赤十字看護大学  
東京都渋谷区広尾4-1-3（日比谷線広尾駅徒歩15分）

**参加費 1回** 会員：1,000円、非会員：2,000円  
学生・院生：無料

●お問い合わせ・申し込み●  
◎加希望の方は、お名前・ご所属・◎加希望日を下記のアドレスまでお知らせください。なお、◎加費は当日ご持◎ください。  
片岡弥恵子（聖路加国際大学） E-mail: kataokakaken@slcn.ac.jp



## ICM募金の御礼と継続支援のお願い

一般社団法人日本助産学会事務局

日頃から、皆様方の暖かいご支援とご協力をいただき感謝申し上げます。

ICM 支援のための募金を常時受付けております。引き続きのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

### ☆ICMスポンサー・ア・ミッドワイフ(国際基金)☆

発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。

一口 2,000円

振替口座番号:00190-8-710931

加入者名:日本助産学会国際基金

### ☆ ICMセーフマザーフッド基金 ☆

世界で妊婦死亡率・罹病率が最も高い地域における助産知識の発展を支援する募金です。一口 1,000円

振替口座番号:00240-8-6818

加入者名:日本助産学会ICMセーフマザーフッド基金

## 事務局からのお知らせ

一般社団法人日本助産学会事務局

### 今年度(2019年度)会費(10,000円)について

本学会は皆様の会費をもとに運営しております。

円滑な事業推進のため、お早目の会費納入をよろしくお願いいたします。過年度の会費が未納の方は今年度分と合わせて、早急にお振込み下さい。

今年度は代議員および理事の選挙の年です。6月末時点で会費完納の方が選挙人対象者となりますので、よろしくお願いいたします。

ご不明な点は、事務局までお問い合わせ下さい。

#### 《会費振込先》

・郵便振込:00120-2- 763540

加入者名:一般社団法人日本助産学会

通信欄に会員番号と納入年度を明記

・銀行振込:ゆうちょ銀行(9900)

〇一九(ゼロイチキウ)店(019)(当座)

0763540 一般社団法人日本助産学会

(シヤ)ニホンジョウサンガツカイ)

・氏名と会員番号を通知してください。

学会誌投稿や学術集会演題応募(共同研究者含)、研究助成応募(研究代表者)等は、会員で該年度の会費納入済みが条件になりますので、応募される場合は、会費納入をお済ませの上お申し込み下さい。

振込忘れや振込の手間を省ける口座引き落としの方法をお勧めしています。

郵便振替から口座引き落としへの変更を随時受け付けていますので、下記問い合わせ先に E-mail か FAX

でご連絡ください。

なお、年会費の書類(請求書・領収書等)の発行が会員情報管理システム上から、オンラインでの即時発行が可能ですので、是非ご利用ください。

※但し「口座引落」ご利用の方は、振替結果データ受信後となるため日程の都合上オンライン領収書の発行は、引落日から一週間後以降となりますのでご了承ください。

### 変更届について

住所等の変更に関しては、オンライン会員情報管理システムで変更手続きが出来ますのでどうぞご利用下さい。以下のホームページからID(会員番号)とパスワードでログインいただき、ご希望の手続きを行ってください。

オンライン会員情報管理システム:

<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/mypage/JAM>

ID・パスワードがご不明の場合は事務局宛お問い合わせ下さい。

オンライン会員情報管理システムがご利用にならない場合は、書面(E-mail・FAX・はがき等)に明記して、その都度お早めにお知らせください。変更届の書式は問いませんが、本学会ホームページからも「変更・退会届」の書式がダウンロードできますのでご利用ください。

## 退会届について

退会を希望される場合は必ず、書面(E-mail・FAX・はがき等)でお知らせください。

書式は問いませんが、本学会ホームページからも「変更・退会届」の書式がダウンロードできます。

\* 次年度から退会希望の方は、必ず1月末までに退会の届け出をお願いします。

退会連絡がない限り会員継続となり、年会費をお納めいただくこととなります。

特に口座引き落としご利用の方で退会希望される方はご注意くださいのですが、会費引き落とし後の退会の会費についてはお返しできません。

ただし会費納入年度の学会誌等は送付しますので、十分にご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

**円滑な事業推進のため、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。**

## 学会誌バックナンバー等の販売のお知らせ

日本助産学会誌バックナンバーのお申込み方法は、本学会ホームページから申込書をダウンロードして希望を記入の上事務局宛にE-mail添付送信するか、FAXしてください。在庫に限りがありますのでご希望に添えない場合はご容赦願います。

※「エビデンスに基づく助産ガイドライン—妊娠期・分娩期 2016」は、委託販売(株)日本助産師会出版)となっておりますので、以下のURLからお申し込みください。

<http://www.midwifepc.co.jp/fs/shuppan/shoseki/I-0002>

一般社団法人日本助産学会事務局  
〒170-0002 東京都豊島区巢鴨 1-24-1-4F  
株式会社ガリレオ 学会業務情報センター内  
TEL:03-5981-9826 FAX:03-5981-9852  
E-mail: [g019jam-support@ml.gakkai.ne.jp](mailto:g019jam-support@ml.gakkai.ne.jp)  
ホームページ: <http://www.jyosan.jp/>

